



カルロ・ラビッツァ

## プロフィール

### カルロ・ラビッツァ

イタリア、ミラノ市

1984-86年度 国際ロータリー理事

1985-86年度 国際ロータリー副会長

1994-95年度 ニース国際大会委員会委員長

1995-97 ロータリー財団管理委員会委員

1996-97年度 米国アナハイムにおける国際協議会委員長

1998-99年度 国際ロータリー会長エレクト

カルロ・ラビッツァ氏は、産業用コンビナートおよびオフィス・ビルのデザインを国際的規模で専門に扱う、自身の名前が付されたカルロ・ラビッツァ建築事務所の元経営者です。氏はまた、イタリアおよびスイスの両国において経営および財務のコンサルタントをつとめておられます。ミラノ市に生まれ、ミラノ大学において土木工学を専攻され、同大学を卒業されました。

ロータリーを通じ、ラビッツァ氏は、世界中の人々の生活を向上させるために尽力してこられました。1996年に、同氏は、遊牧民の子供たちに対しポリオの免疫付与を施すロータリー活動を記録するためにケニア北部へ派遣された奉仕班を引率いたしました。その奉仕班は、西暦2000年までにポリオの撲滅を援助、達成するためにロータリーのポリオ・プラス・プログラムの推進に発揮された弛まざる氏の指導力を端的に物語っております。同氏は、産業先進国の資材を開発途上国のニーズに結び付けるロータリーの世界社会奉仕プログラムの初期の指導者の一人でした。1986年から1988年にかけて、氏は、バングラデシュ、フランス、フィリピンおよびジンバブエにおいて開かれた4つの国際ロータリー開発会議の委員長をつとめられました。その他に、同氏は、住宅および飢餓と云った世界的な問題を取り上げた世界指導者会議に国際ロータリーを代表し参加されました。

1971年以來のロータリアンであるラビッツァ氏は、イタリアのミラノ南西ロータリー・クラブの創立会員で、同クラブの元会長です。国際ロータリーでは、地区ガバナー、諮問委員会委員、情報カウンセラー、各種委員会委員および委員長を歴任されました。最近では、ラビッツァ氏は、1997年国際協議会委員会委員長をつとめられ、これまでに国際ロータリーの副会長、理事および管理委員会委員としても活躍されてこられました。同氏は、ロータリー財団からその国際的な人道のおよび教育的プログラムのための支援活動に対し財団功労表彰状を受賞され、また財団のポリオ・プラス・キャンペーンに対する奉仕功労賞を受領されました。

## カルロ・ラビッツァ会長からのメッセージ

### ロータリアンの皆さま

新世紀の開幕を目前にして、思いはおのずから未来に寄せられます。私たちは自分自身にこう問いかけます：ロータリーはどこへ行く？ 我々の組織は21世紀に参入する準備が果たして十分か？ より力強く、より効果的な活動をするには、いかなる進路を取るべきか？

この問いに対する答は、過去にあります。そして、それにもいや増して現在にあります。未来とは独自に自然発生する状態ではなく、毎日毎日、私たち自身が選択し、活動して作りあげてゆくものなのです。21世紀にロータリーが確実に成功を収めるため、私たちの活動、決断にあたっては、堅実、信望、持続の規準を堅持しつつ、さあ行動を開始しましょう。

**堅実**であるためには、一人一人が、それぞれ心の中なる信念を堅持し、その基本原則に従って行動しなければなりません。ロータリーの使命は奉仕です。ロータリアンは、94年にわたって、この基本的な目的を胸に抱きしめ、その理想を追い求めてきました。この世界も私たちの組織も劇的に変化しましたが、私たちの人道的奉仕と国際理解に対する献身は、さらに一層強いものになりました。然しながら、同時に、私たちは、今日の世界において私たちの使命を堅実に遂行するには、新しい方策やアイデアが必要なことも歴然としております。21



世紀においてロータリーの理想を堅実に引き継ぐためには、創設の理念に忠実であると共に、進んで変革と成長に応ずる心と能力が求められます。

**信望**とは、私たちが、家族に、事業に、職務に、また自分のクラブ、地域社会に対し、いずれの場合も常に良心的な行動をすることを意味します。ロータリアンが誠実であることを実証し、高度な道徳的水準の模範生であれば、人々は皆ロータリーのしていることに信頼を寄せます。今日、国際ロータリーが最高レベルの信望をかちとったのは、ロータリアンが、ポリオ・プラスを通じて人道的奉仕への献身を実証したからです。同じように、全会員が皆、ロータリーの掲げる理想を日常生活において実証すれば、どのクラブも地域社会の信望をかちとり、また持ち続けることができるでしょう。

**持続**というのは、毎年指導陣が変わるような組織にとってきわめて大切なことです。新指導陣が毎年クラブや地区のプログラムを一新してしまったら、結局は、ほとんど何も達成されずに終わるでしょう。ただ、持続ということには、ある程度の謙虚さと度量が必要です。次期指導者は、新しいプロジェクトを始める前に、既に設けられている目標を達成するように要請されます。従って、前任者の計画やアイデアが十分に熟するまで、自分の計画やアイデアを延期せざるを得ません。

国際レベルでも同じことが言えます。1999-2000年度の国際ロータリーにとって、持続とは、ポリオとの闘いにおける最終区間を走ることを意味します；21世紀の奉仕活動に備えて、既存のプログラム機構内で活動することを意味します；寛容と連帯の精神で、全人類が平和に尊厳を保って暮らせる世界を作ろうという、私たちの努力を継続することを意味します。

ロータリー2000は、過去と現在の最良のものを統合強化し、来るべき時代とそこに出現するであろう諸問題に目を据える時です。挑戦すべき課題は少なくありません。今日の大局観をもって来るべき世紀を展望すれば、問題は次のようになります：貧富の格差拡大、暴力拡散、人口増加、食糧配分、国際的統合対地域分権分裂、環境破壊、文化価値観の喪失……これ等いくつかの問題は、既に見られるところです。その反面、未来派は、21世紀の暮らしを改善する進歩の一つとして、より迅速で画期的な通信システム、新エネルギー源、遺伝子操作生産物等の出現を挙げるでしょう。

明らかに私たちは、飽くなき欲求と底知れぬ潜在力で、良くも悪しくも性格づけられる未来に向かって進んでいるのです。私たちロータリアンは、問題と可能性との架け橋を務めるのに特に適しています。私たちは、人間として最も基本的な欲求も満足にかなえられぬ国にも、また先進技術大国にも強力な地盤があります。この地盤を活用しましょう—そこから得られる無比の洞察力でロータリー2000の躍動的な精神を育成し、これを地球の隅々まで押し広げましょう。

ロータリー2000は、前向きな精神ですが、然しそれは私たちの豊かな過去から受け継ぐ最高の伝統に根差しています。それは奉仕と親睦の精神です。国際理解の精神です。寛容と連帯の精神です。それはロータリアン一人一人の心から生まれて光を放し、あまねくクラブや地区に行き渡らねばならぬ精神です。その精神はまた、世界のかなたまでも広がってゆかねばなりません。それは、私たちが皆共に力を合わせて進むことを可能にし、地球上に限なくロータリーを押し及ぼす強靱な精神なのです。

堅実・信望・持続を私たちの羅針盤として、新世紀のロータリーを待ち望みつつ、着実にこの好機に臨みましょう。

**ロータリー2000：活動は—堅実、信望、持続**

カルロ・ラビッツァ

1999-2000年度国際ロータリー会長